

リアルとデジタルのベストミックスとは？

情報教育主任 一色 誠

「リアルとデジタルのベストミックス」という言葉。今まで何度も聞いてきた言葉ですね。では、これって新しい言葉なのでしょうか？答えは「ノー」です。今から 37 年ほど前、ちょうど私が新米教師として日々修行のような生活を送っていたころから、言い回しは違えど、すでにこのような構想はありました。そのころは、子どもがコンピュータ端末を 1 台ずつ持つなどといった「絵空事」は考えも及びませんでした。しかし、とある先輩から「メディアミックスが今後の教育のキーワードになるぞ。」ということを言われ続けていました。その本質は全く現在と同じで「本授業の目的を達成するには、子どもたちにしっかりとイメージを植え付けることや個々の考えを深く練り合うことなどが大切であり、その大きな武器となるものが適切にメディア（情報を伝える媒体）を使い分ける」というものでした。ただ、当時はそれについて「個別化」が困難でありました。そこで、その部分を大きく補う形として一人一台端末が現れたと考えています。

本校では、自己実現を図るためのキーワードとして「ゆめ」を大切にしています。ペアや小集団、全体の中で交流・表現・体験活動を「ゆめタイム」と名付け、様々な学習や活動の場面で行っています。その中でリアル（体験的な活動・対話等）とデジタル（一人一台端末の活用）のベストミックスを図ってイメージの定着や相互の施行の練り合い等の学習を進めています。リアルとデジタルを適切にミックスさせた「ゆめタイム」が豊かな学びにつながっています。

今後も、学習者ファーストという基本的な考えを見失うことなく、子どもたちの学習を保障していこうと思います。

【1 学期を振り返って】

1 年生	あたらしいおともだちがたくさんできました。まいにち、あさがおのお世わをがんばったら、きれいなおはなが三つさいたので、とてもうれしかったです。
2 年生	生活の学習で、夏やさいをそだてたり、夏の虫をつかまえたりしたのが楽しかったです。友達となかよくすごすことができました。
3 年生	音楽で、はじめてリコーダーをふきました。すてきな音色です。シラソがふけるようになりました。もっとふけるようになりたいです。
4 年生	グループで話し合って考えたり、友達の考えを聞いたりしたのが楽しくて、たくさん学んだことがありました。いろんな考えを伝え合い、協力して友達と仲良くなることができました。
5 年生	1 学期は大洲青少年交流の家での集団宿泊活動がありました。いろいろな「出会い」と「感動」と「挑戦」がありました。帰ってからの生活でもこの三つを大切に頑張りました。
6 年生	一番の思い出は修学旅行です。マツダミュージアムでは、自動車や最新技術を見学し、将来このような仕事に就きたいと思いました。バスの中では、仲間と話したり歌ったりして楽しかったです。
ささのこ	一ばんたのしかったのは、えんそくです。すべりだいをしたのがたのしかったです。べんきょうは、たしざんとひきざんのカードをがんばりました。